

～“みくに自然学習歩道”を訪ねて～

夏 梅 晃 一

私は、祖父に手を引かれて幼稚園に入る前の子供の頃から三国に通っていて、三国の海岸線や街がとても大好きです。以前は、かなり真剣に三国に住もうと思ったこともあります。

特に2000年～2009年にかけては、毎年何度も坂井市三国町米ヶ脇～東尋坊～雄島～二の浜(海浜自然公園前)～崎(越前松島)へと続く“みくに自然学習歩道”を訪ね歩きました。海浜自然公園内に2004年7月にオープンした“みくに自然学習センター”は、観察会で利用しているのでご存知の方が多いと思いますが、このセンターは、“みくに自然学習歩道”を利用するための拠点施設として造られたものです。

そこで、今号から何回かに分けて、センター以外の自然学習歩道沿いの施設や自然を紹介させていただきたいと思います。今回は、私の最も好きな場所の一つ「福良」を紹介させていただきます。

1 福良の浜



福良の地形地質解説板と聴音機

東尋坊から雄島方面に少し下った所、福良の浜を見下ろす場所に岩石標本付きの解説板とラッパのような金属製の聴音機があります。解説板は、吉澤康暢先生のご指導の下に製作されたもので、地形地質の野外学習にうってつけです。

聴音機に耳をあてると、あまり波がない時でも、波打ち際の「円レキ」同士が擦れ合う音がとてもクリアに聞こえ、改めて途絶えることのない海食作用を実感することができます。

2 福良の海食崖

福良の浜から雄島方面に階段を上ってもう少し進むと、海食崖上に張り出しているような木製デッキがあります。野鳥解説板と望遠鏡が常設されているので、眼下の海食崖に群れる「ウ」をじっくり観察することができます。

主に10月～5月の間、夕方になると「ウミウ」たちがこの崖のねぐらに戻ってくるため、大集団を目の当たりにすることができます。海と崖を行き来するウミウたちの羽音にも圧倒されます。



福良の野鳥観察デッキ(望遠鏡&解説板付き)

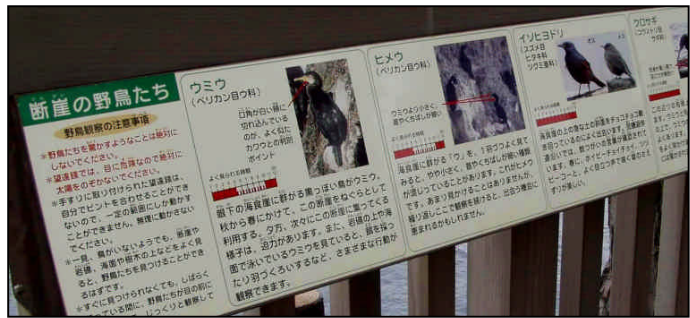
写真のように、以前はデッキ周辺に大きなクロマツがあったのですが、一昨年前頃から松くい虫被害のためかほとんど伐採されてしまいました。静寂なこの場所で、ウミウだけでなく、目の前のクロマツに止まった「イソヒヨドリ」が一所懸命に轉る姿を見ながら聞き入ることができるお気に入りの場所だったので…とても残念です。

崖に集っているウをよく見ると、やや細身のウの存在に気づきます。数年前まで私は、恥ずかしながらウミウの若鳥かな？と思い込んでいました。でも、望遠鏡を設置してから、図鑑と比較してよく見ると、「ヒメウ」であることがわかりました。右の写真にも中央に4羽ヒメウがいます。

ここで面白いのは、何回か通うとわかりますが、ヒメウは、いつも右の写真のこの位置に止まっているのです。数はもう少し多いことがありますが、崖のこの位置よりも決して上にも下にも止まらず、常にこの辺りの位置に止まっているのです。ヒメウより崖の下側にいるウミウもいます。きっと、私たちにはわからない、ウミウとヒメウの社会関係があることが想像されます…どなたか教えてください！



福良の海食崖に群れるウミウ&ヒメウ
2007年4月1日
16時22分撮影



3 福良休憩所とイソヒヨドリ



2009年3月15日撮影

採取場所	採取時期	種子の種類	種子の割合 (%)
1	11月	ツタ	31.2
2	12月	ヒサカキ	18.8
3	1月	トベラ	25.2
4	2月	ヘクソカズラ	15.5
5	3月	その他	19.3

福良の野鳥観察デッキから雄島方面を見ると、海食洞の上に建つ木製の休憩所が、現在は左の写真のように松の木が伐採されてよく見えます。

休憩所には、1988年に林哲氏が福井市自然史博物館に研究報告した

「イソヒヨドリの冬期間の食性とその役割」が解説されています。イソヒヨドリのフンに含まれる植物の種子を調べた結果、11月～1月の間が植物の種子を含むフンが多く、その植物の種類はツタ、ヒサカキ、トベラ、ヘクソカズラでした。イソヒヨドリは、餌が少なくなる冬期間に植物の種子を食べて、フンとして散布することで、植生環境の維持に貢献しているとのこと。これからの季節、越冬したイソヒヨドリたちの大きく美しい囀りがとても楽しみです！

※坂井市が作成した“みくに自然学習歩道”マップは、海浜自然公園内の海浜公園センターで入手することができます。私のホームページ[福良の浅海:<http://www5a.biglobe.ne.jp/~k-marine/>]でも紹介しています。